

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年8月20日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1691100190		
法人名	株式会社 望		
事業所名	おうちととなり		
所在地	富山県射水市黒河3252-1		
自己評価作成日	平成30年7月19日	評価結果市町村受理日	平成30年9月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成30年8月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「おうち」のような安らぎと、「となり」のような親しみを持てる関係づくりを心掛けている。 利用者一人ひとりの状態やその方の背景に考慮し、その人らしく生活できるよう支援を行っている。 地域とのつながりが断ち切れないよう、地域との共存・協力を実践している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>職員は、利用者の尊厳を大切に、認知症による生活上の不都合があっても、すみやかにそっと優しくサポートする支援に努めている。また、近くの保育所と、相互に行き来する関係をつくり、事業所前を散歩していく園児たちと手を振り合ったり、近所の人々が畑で採れた果物や野菜を「みんなで食べられ」と届けてくれるなど、地域の様々な人達と交流し、暮らしの中に笑顔になるきっかけを多くつくっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

おうちととなり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が会社理念を確認できるよう、玄関に掲示している。また、職員がサービスを行う時には、理念についての再確認を行い、理念に基づく実践方法を話し合っている。	朝礼やミーティング時に理念を確認し、理念である「おうちのよう なやすらぎ」を利用者に実感してもらうための支援のあり方などを話し合い、理念の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事・イベントを通じ地域の方々と利用者との交流を図っている。町内獅子舞、黒河保育所の行事参加、流しソーメンなど、地域との一体感を感じられる交流を行っている。	近くの保育所と相互に行き来し、園児やその保護者とも交流を深めたり、近所の人から果物などの差し入れを受けるなど、地域に溶け込んだ事業所運営を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用申し込みに来られた方や、地域の方、また民生委員の方に、認知症についての理解が得られる様、事業所としての取り組みや、より良い支援方法などのアドバイスを行い、地域に根ざした活動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、黒河自治会長、民生委員、射水市職員、地域包括支援センター職員、近隣保育園園長、家族代表に参加してもらい運営推進会議を開催している。運営推進会議では、日々の活動内容の報告や、写真を用いて利用者一人ひとりの近況報告や、より良いサービスの向上に向けて話し合いを行っている。	「自分たちの地域の福祉事業所」との地域の期待に応える中から、地域の役員、保育所園長などの参加があり、行事案内や災害対策などの提案を受け、事業所の運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者には運営推進会議に参加してもらい、活動内容の報告を行っている。今後の取り組みについての意見、助言などの指導を頂きサービスの提供を行っている。	市役所及び地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加し、事業所の現状や課題を共有している。また、個別に確認が必要な際には、その都度相談するなど、市と連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急やむを得ない身体拘束などには、家族の同意を頂き、拘束を行っていたが、その後身体拘束解除への取り組みを行い、現在は解除となっている。職員研修などには、身体拘束を行う場合には、理由や方法などを話し合い適正に行っている。	介護保険制度の改正に基き、身体拘束のないケアのあり方を再確認し、職員の理解を深めている。また、転倒などのリスクと抑制のない暮らしの支援について、利用者ごとに具体的なケア方法を話し合い、安全性に留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修を行っている。また、職員研修や朝の申し送り時に「言葉の虐待」「制止する虐待」について具体的にどんな言葉、態度が虐待にあたるか等指導を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見人制度を利用している入居者は1名。成年後見人制度に関する理解と必要性を、朝礼などを使って職員へ説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際には、必ず事業所の説明・見学を行った上での契約を実施している。重要事項説明書を説明し、入居に対して納得頂いてから、契約書を交わす様行っており、また、Q&A等個々の疑問点などにも、事前に十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所での毎月の様子等を、「おたっしや通信」として作成し、生活の様子、身体の様子等を写真等も用いてお知らせしている。面会時には、家族の意見・要望を伺い全職員に周知出来る様、連絡ノートにて情報の共有に努めている。	利用者からは、事業所の畑に植える苗などの提案がある。また、家族からは、夏場の熱中症対策や、介護保険制度改正に伴う事業所対応などの質問があり、利用者や家族の提案などを事業所の運営に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表の意見を管理者は常に聞く機会を設けており、その意見は直接全職員へ朝礼・連絡ノート等を用いて伝える事が出来ている。また、全職員の意見も管理者を通じ代表に伝えられている。	職員の要望などを、管理者は日頃から聞くように努め、また、ミーティング時に出た意見などを代表者に報告し、夏祭りの実行や台所の扇風機取付けなど、事業所の運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は、毎月の各自の個人目標に目を通し、個々の勤務に対する取り組みを把握している。また、人事考課表を用いて、各自の改善点や、がんばり等を把握し、指導・助言に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表自ら講師を務め、より実践的な研修を社内で行っている。外部での研修、資格取得への研修などに対して有給を用いてより個人のスキルアップを支援できる取り組みを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが主催する研修会へ参加し、同業者との交流や、他同業者が行っている活動などの情報交換を行っている。また、同業者や、居宅介護支援事業所からの見学や、相談も多い。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前には本人との事前面接を行い、問題点などの把握に努めている。本人の望むサービスの提供が行える様、話を傾聴し安心して利用できる支援体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時、家族が望む本人への生活を伺い、その生活についての支援方法などを伝えている。家族との円滑な信頼関係を築く為、家族の不安・要望への傾聴を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時や、初期段階にてサービスを開始する際には、そのサービスの必要性を、本人・家族・担当ケアマネジャーに確認を行い、サービスを開始する事により、現状より良い支援が出来る見極めた時のみ、利用開始としている。その時ではないと見極めた時には多職種と共同して他のサービスへの提案を行う。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の特徴を生かし、「共同生活の場」という意識を感じてもらえる様、食事、洗濯、掃除と日常生活を共に行き、職員・利用者との垣根のない一体感を感じてもらっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節の祭日や、家族の記念日等の外出・外泊の機会を大切にしている。「おたっしや通信」を通して家族と職員が本人を支えているという一体感を感じてもらえる関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人・家族より入居前の生活パターンや、なじみの店・友人などの話も伺っており、入居後にも地域の接骨院や美容院、ショッピングセンター、地域の公園等を利用する事によって、今までと同じ生活が継続される支援を行っている。	行き慣れたショッピングセンターに出かけ、買い物をしたり、近所の人や勤務先のかつての同僚たちが度々訪問してくれるなど、馴染みの場や人との関係が途切れない支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の性格・他の利用者との関係性を見極めて、居室や食卓の場所を決めている。他の入居者とテレビを見たり、お話したり、ゆったりとソファで自宅の様に、寛いで頂けるスペースも確保されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関や、特別養護老人ホームなどへの入院や入所に関して、介護サマリー等の情報提供を行い、本人への継続した支援に努めている。また、入院中の定期的なカンファレンスにも参加し、本人の経過観察を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いを把握する為に、入浴時や昼食時、また本人の居室を訪問するなどして、本人の意向を伺っている。本人の意向や思いを全職員で共有出来る様、朝礼などで時間を取って、職員に伝えている。	日頃の会話から、例えば高校時代の特技を教えてもらい、今の暮らしの中に取り入れたり、利用者一人ひとりの表情の変化などに気づくよう努め、本人の思いを感じ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時前の事前面談や、家族から生活歴・趣味等をお聞きしている。地域包括支援センター、居宅介護支援センターからも情報の提供があり、入居時に、家族の写真、思い出の品を持参して頂き、安心して生活が出来る様、体勢を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが得意な事を把握し、お掃除が好きな方は、タンスの整理や、園芸が得意な方には、お花を活けてもらったり、本人の残存機能を活かせる支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時、また日々の変化による家族への電話などで、家族の意向を聞き、ケアプランに反映させている。また、月に一回多職種連携での担当者会議を開催し、問題点・改善点なども話し合っている。	本人がどう暮らしたいかを、じっくりと聞き、また、家族の要望や薬剤師の意見などを参考に、介護職、看護職などの各々の提案をもとに、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子等は、個別生活記録に記載している。重要な事柄や、全職員で把握しなければならない事項については、連絡ノートに記載し、朝礼で必ず伝え、それに対しての職員の意見などを述べてもらい見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの要望やニーズに対して、個別で化粧品を買いに出たり、平行棒を使っての下肢リハビリなど、個々に支援できるサービスの提供に、心掛けている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園での行事や、お寺での報恩講や、花まつりへの参加など、地域資源を有効に活用し、豊かな施設生活を支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	平成30年4月より、はぎの里クリニックへ主治医が変更となり、現在月2回往診へ来て頂いている。緊急時対応の指示や、発熱時の急な往診にも対応して頂いている。また看護師3名も常に主治医との連携を図り、各医療機関地域連携室とも交流を持っている。	協力医を、利用者の体調面を考慮し、緊急時24時間対応の訪問医療専門医に変更し、総合病院への紹介、事業所の看護師による医療連携などを行って、利用者や家族の安心につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常勤・非常勤で3名で24時間のオンコール体制を取っている。申し送りや、カンファレンスサービス担当者会議にも出席し、介護職員と利用者についての医療面に関しての共有を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には協力医への紹介状の手配や、介護サマリーを作成し医療機関への提供を行っている。退院時に向けてのカンファレンスには代表・管理者・看護師が出席し、退院後の円滑な受け入れに向けての体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に向けての説明を行っている。また、本人や家族から希望を聞く事で、出来る限り意向に沿えるよう協力医・看護師との連携を図っている。	かかりつけ医の所見をもとに、医療面の処置が必要な場合には、利用者や家族と相談し、療養型施設などへの転院をサポートしている。体調面の変化が見られれば、早い段階から利用者や家族の思いを聞き、関係者と相談を重ね、方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時・緊急時に際して迅速な対応がなされる様、緊急対応マニュアルの確認とAEDを使用した心肺蘇生講習会を消防署にて実施し、緊急時に向けての訓練も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、昼夜想定避難訓練を実施している。また地域の施設消防団、町内会、自治会の方々にも災害時には協力体制を求めている。有事の際には、米・水・毛布など備蓄も継続して行っている。	水害と土砂災害については、ハザードマップで確認している。地震を想定して、コミュニティセンターまでの誘導訓練や消防署立ち会いによる火災避難訓練などを実施している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を傷つけない為に、声掛けなどに注意を払っている。また居室等のプライベートスペースなど、ドアをロックしてから入る様、朝礼などで全職員に周知を図っている。	利用者と馴染みの関係を築く一方で、馴れ馴れしい対応にならないよう留意している。また、認知症による生活上の不都合があったとしても、そっと優しくサポートし、一人ひとりの誇りを損ねないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各自の好みに応じて、お茶の時間など、好みの飲み物を飲んで頂ける支援を行っている。レクリエーションの参加・外出の参加等も、本人の意思が尊重できる支援を実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や、就寝時間、入浴時間、本人がゆっくりと過ごしたい時間など、本人のペースで過ごせる支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活を、気持ちよく送って頂ける様に、季節に合った装いを本人と相談し、洋服を選んでいる。毛染めしたい利用者には、家族となじみの美容院へ通って頂いている。カットのみ希望の利用者にも都度訪問美容にてカットも行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じて、事業所裏で販売している竹の子を利用者と買いに行き、竹の子ご飯を作って召し上がってもらったり、季節の祭りなどに合わせて、お寿司や、お刺身なども近所のお店から取り寄せ、召し上がって頂いている。	普通の家のような食事風景を大切にし、今日はお祭りという日には、魚屋さんから取り寄せた新鮮なお刺身に舌鼓を打ち、秋には、地元産の梨を味わって、季節を感じるなど、食事が楽しくなるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取が少ない利用者には食事をゆっくり摂って頂く為に食事開始時間を早めたり、水分摂取量を計り、不足者には促しや一部介助などで支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、自分で出来る口腔ケアを行ってもらい、磨き残しなどは、職員が介助を行っている。口腔内、義歯の確認などをその都度行い、治療が必要な利用者には看護師と共にかかりつけの歯科に受診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各自の排泄パターンを排泄チェック表に記載し、定期的な声掛けでトイレ誘導・パット交換を行っている。また、できる事は自分でしたい思いを重視し、残存機能を活かした介助にも取り組んでいる。	トイレに行きたいなど、利用者の声に速やかに快く返事をするなど、職員の様々な支援によって、排泄の自立につながるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量に注意を払って水分を多く摂取していただいたり、椅子に座ってでの軽体操・歩行運動等、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時には、本人の顔色やバイタルチェックを行った上、安全に入浴が出来るよう支援している。その日の気分なども体調に影響する事から、入浴日の変更やゆったりと個浴対応し、プライバシーに配慮しながら入浴を実施している。	気分転換に入浴剤を入れると「きれいな色」とか「いい香り」と喜んでもらっている。職員は、慌ただしい雰囲気を出さず、ゆっくりとした気持ちで楽しく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めず、本人のこれまでの生活パターンを重視し、眠れないなどの利用者には、温かな飲み物を提供し、気持ちよく休んでもいただける支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月一回、看護師・薬剤師・管理者・介護支援専門員がミーティングを行い、薬の用法・用量や、副作用や注意点など確認し、知り得た情報は職員ノートに記載し全職員に周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事業所の中で張りのある生活を、送って頂く為に、自分の事が自分でできた嬉しさや、家族と外食をしてくる等、家族・知人の社会資源も取り入れた支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭に出て、日光浴を楽しんだり、職員と共に散歩に戸外に出る支援を実施している。また、本人の希望するお店（ショッピングセンター・コンビニ）での買い物など個別支援を行っている。	事業所の中庭や駐車場に出て、近辺の畑や竹林などを眺め、気分転換を図っている。また、太閤山ランドや少し離れたお寺のしだれ桜などを見にドライブするなど、楽しみごとの外出にも努めている。家族と気軽に外出できるよう、事業所の車椅子の貸し出しを行い、外出の機会を増やしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所にて、お小遣いを管理しており、家族了解の元、本人が希望する物を購入している。入居後も、お財布が無いと不穏な状態になる方がいる為、その時にも家族に許可を得て、管理を本人にして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方は、ご家族に自由に電話を出来るなどの支援を行っている。お手紙や、お届け物なども、直接本人へお渡しするなどの配慮も心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースは、幅広の窓を設置し、中庭へ出やすくなっている。また天井も高く自然光も十分にフロアに注がれている。空調も常に一定温度を保つよう設定しており、利用者に合わせた温度設定を実施している。庭の花壇には、四季の花々が植えられており、利用者にも、季節感を感じてもらえる支援を行っている。	天気予報をもとに、早めに室温や湿度を調整し、快適に過ごせるよう配慮している。また、お花を切らすことなく玄関やリビングに飾り、季節感を感じ取りながら、和やかな雰囲気の中で、暮らせるよう環境をつくっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、テレビやソファが設置されており、他の入居者と談話しながら過ごしたりすることができる。隣のユニットへも、自由に移動ができ、中央スペースには、家族・友人の面会者と、座って会話できるテーブル・イスを設置し支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、本人の身体の状態も確認しながら、居室内の家具や、ベッドの配置などにも配慮を行っている。使い慣れた、枕やぬいぐるみなど持参して頂き、安心して事業所での生活に慣れて頂ける様に支援している。	使い慣れた整理ダンスの上に「家庭画報」など愛読していた雑誌や可愛い表情の人形を飾るなど、一人ひとりに合わせた居室をつくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーとなっている。他、廊下の手すりなども設置済みである。設置済の椅子や、テーブルなども、動線を妨げない様に設置してある。各自の居室やトイレの場所なども大きく表示し、認識しやすい様、配慮している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 おうちととなり
作成日 平成30年9月10日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		家族からの「若いスタッフにもう少し笑顔が見られたらよいのと思った」「もっと活発に、全体を明るく対応してほしい」と意見が寄せられている。	笑顔で明るく業務ができるよう待遇改善したい。	①家族からの「若いスタッフにもう少し笑顔が見られたらよいのと思った」「もっと活発に、全体を明るく対応してほしい」と意見が寄せられていることを伝え、意識付けする。 ②毎月の自己啓発シートを用いて待遇改善を図る目標を掲げ、集中的に意識改革及び待遇向上活動を行う。 ③待遇改善委員会を発足し、待遇向上のための活動及び定期的な評価を行う。 ④月曜日～金曜日の朝礼時、笑顔の練習やあいさつ、声かけの呼びかけを行う。（内容は待遇改善委員会が企画する）	平成30年10月 ～ 平成31年9月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。